

編 集 後 記

早いもので昭和57年も残りわずかとなりましたが、今年は当公団にとりましては創立満20周年、湾岸線開通と記念すべき年でした。それを意識したわけではないのですが、今年の技報は、掲載論文を昨年年第1号より4編も多い17編と増やしました。投稿論文が多く内容的にも興味あるものが多いため幹事会、編集委員会の判断の結果、当初の予定数より多くしたのですが、昨年より投稿論文が多くなることは喜ばしいことです。内容的には出来るだけ各部門から掲載するよう心がけました。部門によっては、論文にし難いものもあり各部門同じように掲載することは無理でしょうが出来るだけ広い部門からの投稿が望まれます。

また、今年は幹事の方々による論文の査読を行い、場合によっては修正をお願いしました。最初のことで査読の基準も明確ではなく、執筆者の皆様にもご迷惑をおかけしたかと思えます。今年の反省を今後に生かしたいと思えます。

最後に、ご多忙中にもかかわらずご協力いただきました寺田理事、各執筆者に感謝すると共に、今後さらに技報を良くするために皆様方のご理解、ご協力をお願いする次第です。

(江 見 晋)